

➕コンタクトレンズを処方するのは医師の仕事

続いて、コンタクトレンズを選ぶときのポイントを説明しましょう。

コンタクトレンズを処方できるのは、日本では医師だけです。はじめて使用する人は必ず眼科で検査を受けなければなりません。

角膜の表面のカーブの度合いは、人によって異なります。コンタクトレンズは個人のカーブの度合いに合ったものを選ばなければ、角膜に傷をつける原因となります。このカーブの度合いを「ベースカーブ」と呼びます。医師や専門家の指導のもとに、コンタクトレンズが瞳にぴったりフィットするベースカーブのものを選ばなければなりません。

なかには、コンタクトレンズの装用によって眼が危険な状態に陥る人もいます。

たとえば、アレルギー性結膜炎や角膜知覚過敏の人がコンタクトレンズを装着すると、症状が悪化する恐れがあります。角膜知覚過敏とは、違和感が少ないソフトコンタクトレンズの装用でも異物感を覚え、痛みが続く症状です。これらは事前に検査を受ければわかります。同時に、眼科で定期的に検査を受けて自分の眼に異常がないかを気にかけてやれば、このようなトラブルを防ぐことができます。

日本眼科医会の「コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査」によると、コンタクトレンズ使用者の5〜10パーセントに眼の障害が出ていると推測されています。これは日本眼科医会所属の眼科医だけによる調査なので、実態はもっと多いように思います。

POINT

医師の指導なしにコンタクトレンズを買った、思わぬ事故につながる